

創立の頃

三期生 市川 功嗣

西高卓球部の実質的な集まりは昭和二十年頃に始まったと思うので、早や三十年になんなんとする月日がたつていと言えましょう。昭和二十年といえ、終戦の年です。食糧難を始めとし家は焼け出されて、バラック住まいの、ないないづくしでしたが、全員が同じであり欲求不満を感じる暇もなかった頃です。朝は塩で歯をみがき、寒夜には毛布を足にまいての一夜漬けの猛勉強？ のコツを体得した頃です。空襲警報発令で、学校閉鎖を喜びながら、富士見丘駅へ帰る途中、畠の下真中でP-51に機銃掃射され、身を伏せたすぐ傍の地中の薬包に思わずゾツとすると共に、転んでもタダでは起きない精神でこれを掘り出し、熱いのでヤキイモよろしく持っていた時に「あんな真似をしては危いぞ」と注意されたのが田中先輩で、以後卓球に、勉強に、又田中さん宅での遊びに、いろいろお世話願う初縁となった訳です。

この様な時代ですから、卓球部の第一歩は自然集団です。卓球といっても正規の卓球台が勿論あるわけでなく、旧体育館の南側の野天に理科用の机を二台並べ、大きい部分はチヨ

ークでアウト部分とし、ネット、ラケットは木の切れ端しを活用、というもので、昨今の小学校の片隅の野外卓球台の方がよほど立派なものです。しかもこの台として一台で、休み時間に取りつく為には終業ベル五分前に準備を始め、鳴ると同時にドアにダッシュしなければならなかったものです。今もお元気に教鞭をとっておられる岡田先生（通称シワちゃん、小生の会社に二、三回お寄りいただいた程生徒徒思いです）に、「君の頭の中は勉強でなくピンポンの事ばかりか。」と注意された事も昨日のように懐しく思い出されます。そのうち、ラケットは自作して持つてくるようになりましたが、多分器用な田辺兄△何故なら彼はその後、麻雀牌も自作しているから▽が元祖で、それに紙をはって、今という裏ラバーまがいにならなく発展させたり工夫をしたものです。（ここでつい一言、最近の子供はすぐ買ってくれと言って工夫がない、と親の小言）

マア、こんな調子で始めはフォームも何もあったものはありません。費用節約の為に荻村兄が発見してきた方法ですが、壊れたボールは酢酸ナントカでパッチ当て修理して再使用するのです。台も球も正常でないからイレギュラーはしょっちゅうであり、運動神経も一段ときたえられたことと思います。そうこうしているうちに皆の熱意が自然結集して、田中、中田両先輩を中心に、卓球部創設の話が昭和二十三年頃より持ちあがり、学校側に何回となく懇願し（今の如

く交渉ではない!!)卓球は女子がやるものとの侮辱概念を乗り越え、同好クラブが認められ初めて中古の卓球台を手にした時の喜びはひとしおでありました。この時も又、経費節約の為此の卓球台を渋谷付近からリヤカーで引っぱってきたのが荻村兄達で、小生要領よくサボッタ方で、いずれ誰かが紙面を飾ってくれるでしょう。卓球台入手と共に我々も昇格して体育館(と言っても床板はこわれ、窓ガラスは板張りのスキ間風ビュービュー)の中にヤット入れてもらいましたが、それとともに入部部員も一段と増え、練習の順番待ちに更に拍車がかかりました。朝始業前一時間には登校し(母親の早起き大変!! ツクヅク感謝)夜は電気がないので、暗くなつて球が見えなくなるまでやったものです。と言つても、練習して時間より待つ時間の方が長いのが実情ですから、退屈しにぎに囲碁・将棋を多分原田君あたりが持ち込みワイワイと賑やかにやったわけです。お陰で社会に出るから勝負事で人が口を出してもあまりおこらない性となり、賑やかな囲碁をやっております。大分話がアツチコツチに飛びましたが、日曜も殆んど弁当持ちで練習し、又、張り合う仲間も大勢いて、チョッと油断するとすぐレギュラー落ちですから強くなるのは当然です。確か、創立二年目に荻村・市川組がダブルス東京四位で自信をつけ、三年目の憲法大会にはドブチュウこと藤崎先生、唯一のOB田中先輩の応援を得て団体戦優勝を手にし、皆と喜びを分かちつたものです。この後、全国高

校選手権大会東京予選は第一シードとなりながら、決勝で高千穂商業に涙をのんだのですが、お陰で修学旅行には行かれず、高校選手権に出る予定もフイとなり、修学旅行なるものは混乱期でもあり、小中高校のどれ一つ行つたことがない事となりました。

ここで一言、当時の西高について申しますと、卓球の都内優勝と共にテニスも優勝し、確か、陸上、バスケット、アメリカンフットも準優勝ラインを確保し、頭脳と共に運動でも盛名をはせた事をお伝えします。いずれにしても、西高は終戦時でもあり、我々世代は入学無試験、高校は学制改革で無試験と六年もユックリ出来、今の試験地獄をみるにつけ、のびのびと青春を謳歌(今だからそう思うのかもしれない)出来た訳です。

大分トリトメのない事を書きましたが、卓球を始めて「ユックリ」一筋に三十年たった今ですが、卓球の先輩仲間達には「御無沙汰致しますが」「イヨオー!」「例の件ひとつよろしく」の一言で、気心も知れわたっており、通じるものが今もあります。世によく言われるように、学校時代の友達、特に私にとっては運動仲間はとりわけよいものである事を最近つくづく感じてます。

現役部員の皆さんも苦しい試練の時を乗り越え、共通の目標に向って夫々の可能性を追求するよう、是非頑張ってください。